

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

全住民は22名、かつ高齢者の割合が多くを占める集落において、「守るべきものは営農も含めた住民の暮らしそのものである。」という考えのもと、「人と獣の境界線をつくり、人と獣の棲み分けを図る」取組を開始して以来10年以上、イノシシによる農作物被害・畦畔被害ゼロを維持。

かん と べ
福井市神当部区
たの たよえもん
（代表：多野 太右エ門）

福井県福井市

主な取組

- 「人と獣の境界線づくり」として、平成26年から27年の2か年で、集落ぐるみの体制で集落周縁の里山内に点検通路を整備し、獣側が作業スペースとなるよう通路の集落側に電気柵2段を設置。毎年4月初旬に3～4名で点検通路の補修と電柵コードの設置作業を行い、電気柵設置期間中は、毎週1回当番制で見回りを行い、電圧の維持管理を行うほか、台風などの強風の翌日には必ず電圧測定を行い、異常があれば自主的に点検補修を実施。降雪前の11月中旬に4～5名で撤収作業を実施。
- 電圧を高く維持するため、電柵コードを4年ごと更新。また、電気柵の集落側はもとより、電気柵より山側10m程度まで緩衝帯を整備しており、さらに野生鳥獣に対する心理的な圧をかけている。
- 「人と獣の境界線づくり」に取り組んで以来10年以上、イノシシによる農作物被害・畦畔被害ゼロを維持している。取組開始当初にはシカを目撃や出没があったものの、近年はほとんどなくなっている。また、クマの大量出没年でも神当部区周辺では痕跡・目撃情報は無い。

【被害金額（神当部区内）】

約180千円（活動開始時：平成26年度）→約0千円（令和5年度）